樹脂サッシメーカーの最大手、シャノン（現エクセルシャノン）の防火認定不正事件には驚かされた。Q1住宅やQPEX計算など、これまでずっと信頼できる仲間だと思っていただけにどんな内情か知る由もないが残念である。

この事件は、何かの間違いではなく、意図的な不正ということが決定的に信頼を裏切ったことになる。そういう点で、シャノンウィンドの特別な断熱性能値(K値1．4とか1．8など)も本当に信頼できるのかという思いになる。現にそういう問い合わせも受けている。

これから、当分の間、QPEX計算において、シャノンの性能を特別な値として計算することはやめたいと考えている。

私は、同社があらためて建材試験センター等で性能試験を実施して欲しいと願う。そして、それまではIBECの基準値(2.0、2.33、2.91)で計算することがユーザーに対する良心だと考える。2009.1．16　会沢

朝日新聞　新聞定価 月極 3,007円(本体価格 2,864円)消費税(143円)・1部売り(税込み) 130円　第3種郵便物認可

サッシ5社 耐火偽装

国の認定試験で不正

計5500棟、無償改修へ

サッシメーカー5社が、戸建て住宅やマンションに使われる樹脂サッシの防耐火性能に関する国土交通相の認定を受ける際、実際の製品よりも性能を高めた試験体（試験用のサンプル）を持ち込んで不正に認定を取得していたことがわかった。建材メーカーの不正が相次いだ07年の国の調査にも「問題なし」と虚偽報告していた。国交省は不正があった計80件の製品認定を取り消す。

国交省は「虚偽報告まですることは極めて悪質」とし、5社以外も07年に虚偽報告をしていなかったか調べ直す。

5社は、エクセルシャノン（東京都港区）▽三協立山アルミ（富山県高岡市）▽新日軽（東京都江東区）▽3社の合弁会社のPSJ（東京都中野区）▽H・R・D SINGAPORE（シンガポール）。国交省と各社が8日、発表した。

発表によると、不正があったのは、27種類の樹脂サッシについて各社が取得した計80件の認定。03年2月～08年7月に認定された。後にさらされても分間延焼を防ぐ性能が求められるが、13分程度しかないとみられるという。

主に北海道、東北の寒冷地の戸建てやマンション、ホテルなどの約5500棟に使われている。エクセル社が約4100棟と大半を占め、三協約750棟、新日軽約90棟、PSJ30棟、各社は無償改修する。

多くの製品は複数社が共同で開発して試験を受けて認定を取得していた。国交省の外郭団体などで行う試験に持ち込む試験体は、主にエクセル社が製作。エクセル社はすべての製品の不正にかかわっていたという。

不正受験では、実際に販売するものよりも延焼防止材を多く埋め込んだ試験体で認定試験を受けるなどしていた。

◇

各社・関係機関の相談窓口の電話番号は次の通り。

財団法人住宅リフォーム・紛争処理支援センター＝03・3556・5147（土、日、祝日を除く午前10時～正午、午後1時～同5時）

エクセルシャノン＝0120・005・211（フリーダイヤル、1月20日までは午

記者会見する各社の社長。（上から）エクセルシャノンの中村展美社長、PSJの吉野俊彦社長、三協立山アルミの川村人志社長＝いずれも8日午後、東京都港区、小林裕幸撮影

07年「問題なし」報告―隠蔽認めた社も

建材の防耐火性能をめぐっては、住宅に使われる耐火材で07年10月にニチアス（東京都）の不正受験が発覚して以降、東洋ゴム工業（大阪府）の断熱パネルなどでも問題が次々発覚した。国交省が同11月、認定を受けているすべてのメーカーに対して性能を調べ直して報告するよう求めたが、今回の5社は同12月、性能試験を行わないまま「問題なし」と報告。問題製品の出荷は1年後の昨年12月下旬まで続いた。

エクセルシャノンの中村展美社長は8日夜、東京都内で記者会見し、「隠蔽と取られても仕方がない」と謝罪した。エクセル社内では07年時点で、当時の経営陣も不正の事実を把握していたという。

樹脂サッシは同社の親会社・トクヤマ（山口県周南市）が約30年前、国内で初めて製造を開始。中村社長は「安い外国製品との競争に押される中、開発部門に焦りがあったようだ。コスト削減意識もあったと思う」と説明。サッシは一つあたり約5万～約8万円で、延焼防止材を少なくしたことなどにより約1万円のコストが削減されたという。

公表に踏み切るきっかけになったのは昨年9月の取締役会。社外取締役のトクヤマ幹部が問いただし、エクセル側は同11月に事実を社内で報告。公表方針が決まった。

昨年3月に不正の報告を受けたという中村社長は「改修するにしても認定を正規に取った製品がないことから公表をためらった。今思えばはやく公表すればよかった。後悔している」。

三協立山アルミ、新日軽、PSJも都内で記者会見し、3社の社長ら7人が謝罪した。吉野俊彦・PSJ社長は「虚偽報告とは認識だったのか」と問われると、「その時は曖昧なことだと思った」。三協立山アルミと新日軽は、不正を把握していたのは「開発担当者レベルだった」と説明。新日軽幹部は「隠した意識はなかったと思う。今、ことの重大さを感じている」。

日本人医師 解放
リア誘拐
赤羽
供